

教育振興基本計画に関する熟議の状況

1. 趣旨

第2期基本計画の策定にあたっては、中央教育審議会における議論とともに、「熟議^(※)」を通じて、立場を超えた方々と協働して議論を深めながら、計画を策定していくことが必要である。さらには、こうした熟議を通じて、計画に関する理解や、教育への当事者意識を高めていくことも重要。

このため。文部科学省では、年末に公表された「第2期基本計画の基本的考え方」を活かして、「計画に関する熟議」を推進しているところ。

(※) 文部科学省では、現場の課題解決と政策形成の好循環を目指し、平成22年4月より「熟議」の取組を行っており、その手法は当事者による学習・合意形成・課題解決等を促進する上で有効である。

2. 実施状況

(1) 「第2期基本計画の基本的な考え方」をベースとした各地における「計画に関する熟議」の開催を推進。

- 例：【ケース1】甲府昭和高校での熟議
【ケース2】生徒シンポジウムでの熟議

(2) 各地にて開催されている熟議にて、「基本的な考え方」の概要及びリーフレットを配布、文科省職員より説明。

※これまでに11箇所の熟議イベントにて、配布や説明
※今後とも閣議決定に向けて、引き続き推進していく

基本計画に関する熟議リーフレット→

文部科学省より
管理へお知らせ

教育振興基本計画について

文部科学省

I. 教育振興基本計画とは？

10年間を通じて目指す教育の姿を示し、その実現に向けて5年間で取り組む教育政策の道筋を明らかにする計画です。

- 教育振興基本計画は、改正教育基本法第17条に基づき政府が策定する、日本の教育の振興に関する総合計画です。(第一期計画期間：平成20～24年度)
- 地方公共団体も本計画を参酌し、地域の実情に応じた計画を策定するよう努めています。

II. 第2期教育振興基本計画の策定に向けて

現在、中央教育審議会において、第2期教育振興基本計画の策定に向けて議論しています。

- 平成23年12月には「第2期計画の策定に向けた基本的な考え方」がまとまりました。平成24年度中には、中央教育審議会からの答申をいただいた上で、第2期計画を閣議決定する予定です。

第2期計画の策定に向けた基本的な考え方<詳細は裏面>

- ◇ 我が国が直面する危機を乗り越え、持続可能で活力のある社会を構築していくための社会の方向性として、「自立、協働、創造」の3つが理念重要であると整理しています。
- ◇ これらの理念を踏まえた今後の教育行政の方向性について、以下の4つに整理しています。
 - ・社会を生き抜く力の養成 ～教育の質の向上やその保証～
 - ・未来への飛躍を実現する人材の養成 ～グローバル化に対応する人材、イノベーションをもたらす人材、社会的課題に対応した人材の養成～
 - ・学びのセーフティネットの構築 ～多様な学習機会の確保、安心安全な教育環境の整備～
 - ・絆づくりと活力あるコミュニティの形成 ～社会全体の教育力の向上など～

III. 第2期教育振興基本計画と熟議の連携！

中央教育審議会における議論だけでなく、様々な「熟議」における議論も踏まえつつ、立場を超えた方々と協働して計画を策定していきます。

- 皆様の開催する熟議のうち、基本計画の論点ともリンクする議論は適宜、中教審にも報告させていただきます。裏面の「第2期計画の策定に向けた基本的な考え方」も参考にしてみてください。
- 熟議を主催してみたい方は、以下の連絡先までご連絡ください。中央教育審議会委員や文部科学省職員が出席する可能性もあります。第2期教育振興基本計画と一緒に作っていきましょう！

<問い合わせ先>文部科学省生涯学習政策局政策課 高橋、宮崎 03-6734-3279(直通)

【ケース1】 甲府昭和高等学校 基本計画熟議

日時：平成24年2月8日（水）14：30～15：50

場所：山梨県立甲府昭和高等学校2年1組

テーマ：「これからの社会を生き抜く力とは何か。その力を身につけるために高校はどうあるべきか」

※「生き抜く力」「高校の在り方」について熟議

熟議

【熟議のポイント】

- グローバル化社会の中で「自立する力」が必要になる。海外留学やホームステイの体験を必須とし、自己管理ができるような人間になる必要がある。
- 「協力できる力」が求められる。みんなで行う学校行事を増やすことにより、身につく力ではないか。このことにより協力に必要な人間性やコミュニケーション力が培われる。
- 「絆」が必要。人と積極的に関わられる「社交性」を身につける必要がある。災害などいざという時に回避できる「身体的な力」「運動神経」も必要。
- 社会や職業、人と連携することができる「コミュニティ能力」を身につけなければならない。そのためには世の中や職業について学ぶ授業をつくる、外部講師による授業を増やす、ボランティアの体験をする。
- グローバル化社会の中では、「個性」を出すことが重要になる。個性を身につけるためには、映画、ミュージカルなどつかった教育が有効では。
- 学力を身につけるためには、一斉授業ではなく、生徒自身が授業をすることがいいのではないか。今日の熟議のような方法で、自分たちで学びを育てていくことが必要。
この取組によって「団結力」「協調性」などが培われる。このような「熟議」を他の高校との間で行うことも有効。



【ケース2】 生徒シンポジウム 基本計画熟議

日時：平成24年3月31日（土）

場所：早稲田実業学校

テーマ：「これからの社会で生き抜くために必要な勉強・教科とは」「学校と地域との関係や連携、共同など『絆づくり』」

参加者：都内中学校・高等学校の生徒会役員を中心とする生徒

※「生き抜く力」「絆とコミュニティ」について熟議

熟議

【熟議のポイント】

（これからの社会で生き抜くために必要な力）

- 結局は「学習意欲」が重要なのではないか。それがあれば、それぞれが学び続け、成長していける。
- 「国語」はすべての基盤となる力。これからの社会では異質な人と交流していく力、議論することができる力が重要。
- 分かりやすく伝える力、どうやったら相手に伝えられるかという観点から「数学」が大事。また、表現力の養成としての音楽や美術も大事なのではないか。

（絆づくり）

- 絆づくりのメリットは、人生が豊かになる、他者と協力することで、出来ないことができるようになること。
- どうやったら絆が生まれるかの正解はないが、祭や子供会など地域行事に積極的に参加することによって培われるもの。



< 熟議の実施状況・今後の予定 >

日時	テーマ	主催
1月18日(水)	山梨県立甲府昭和高校熟議 「甲府昭和高校の課題と強み」	やまなしの翼プロジェクト
1月25日(水)	東山田中学校コミュニティハウス熟議 「私にとっての気づき 学校と地域が共にキャリア教育を実施して」	東山田中学校
2月8日(水)	山梨県甲府昭和高校熟議「これからの社会を生き抜く力とは何か。その力を身につけるために高校はどうあるべきか」	やまなしの翼プロジェクト
3月3日(土)	全国縦断熟議「熟議2012 in 香川大学」 「地域とともに歩む大学づくり～香川大学の人材育成機能への期待を問う～」	香川大学、文部科学省
3月11日(日)	プロジェクト結活動報告会 「石巻の現在、未来、私には何ができるか」	プロジェクト結
3月17日(土)	全国縦断熟議「熟議 in やまぐち」 「発見し、はぐくみ、かたちにする知の広場～実りある知の循環をつくりだすために～」	山口大学、文部科学省
3月18日(日)	新しい公共時代の地域社会づくり・学び合いをベースとした取り組み	都留市活性化コンソーシアム
3月20日(火)	愛媛県新居浜市立船木公民館熟議	新居浜市教育委員会
3月31日(土)	全国縦断熟議「熟議2012 in 明治大学」 「地域の活性化について考える～明治大学と地域との協働～」	明治大学、文部科学省
3月31日(土)	生徒シンポジウム～「これからの社会で生き抜くために必要な勉強・教科とは」 「学校と地域の関係や連携、共同など『絆づくり』」	多摩生徒会協議会
4月25日(水) 26日(木)	伊達市「熟議」研修会	SENDto2050プロジェクト
5月25日(金)	釜石市「熟議」研修会	SENDto2050プロジェクト
6月17日(日)	UNISC全国学生フォーラム2012	日本学生会議所
6月22日(金)	釜石市「生徒会サミット」	SENDto2050プロジェクト

※今後も継続的に開催される予定（上記の予定は日程が確定しているもののみ記載している）